

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 1 区分
【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公表番号】特表 2001-509070(P2001-509070A)
【公表日】平成 13 年 7 月 10 日 (2001.7.10)
【出願番号】特願平 10-530538
【国際特許分類第 7 版】

B 0 5 B 11/02

A 6 1 M 15/00

【F I】

B 0 5 B 11/02

A 6 1 M 15/00 Z

【手続補正書】
【提出日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成 1 6 年 1 0 月 1 4 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成 1 0 年特許願第 5 3 0 5 3 8 号

2. 補正をする者

事件との関係 出 願 人

住所 ドイツ連邦共和国、デー 7 8 3 1 5 ラドル
フツエル、オエシレストラッセ 1 2 4 - 1 2 6名称 インジ エリッヒ プファイファ ゲーエム
ベーハ

国籍 ドイツ連邦共和国

3. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門 2 - 8 - 1

虎ノ門電気ビル

電話 0 3 (3 5 9 1) 1 4 4 9

氏名 弁理士 (7 4 5 3) 田 辺 徹

4. 補正対象書類名

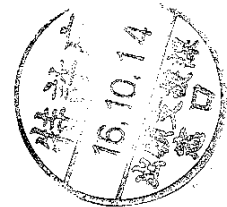
明細書

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

別紙のとおり請求の範囲を補正します。



請求の範囲

１．ベース本体（１２）及び媒体リザーバ（２０）を備えたスラスト・ピストンポンプ（４６）を使用する流動性媒体の吐出装置であって、前記媒体リザーバは、前記スラスト・ピストンポンプ（４６）のポンプ・チャンバ（２３）を形成し、前記媒体リザーバの中では、ポンプピストン（２１）が、少なくとも２回の吐出ストロークのステップに渡って開始位置から移動可能であり、前記媒体は、前記ベース本体（１２）の中に設けられた吐出流路（１９）を介して特にはスプレーノズルである吐出開口（１４）に向かって流れ、その開始位置において且つ各々の更なる吐出ストロークのステップの開始時において、付加されることになる最小の作動力によって破壊され得る圧力点プロテクタ（２７，３９）が存在するように成した、流動性媒体の吐出装置において、固定ストッパは、破壊され得る圧力点プロテクタから分離されていて、第１吐出ストロークのステップを終了させるために設けられており、さらに吐出するストロークのステップのための圧力点プロテクタ（３９）が、ストッパ（３７）をフリーにする係止解除操作によって、解放位置に移動されることを特徴とする吐出装置。

２．前記圧力点プロテクタ（２７，３９）は、少なくとも１つの所定の破壊点を包含するように成したことで特徴付けられる、請求項１に記載の吐出装置。

３．前記圧力点プロテクタの一方（２７）が、スナッ

プ嵌込みリング（２８）を包含し、前記リングは、好ましくはスリーブ（２５）の中に形成され、前記スリーブは、前記媒体容器（２０）を受け入れ、且つ破壊可能な材料ブリッジ（３０，４１）によって作動プッシャを形成するように成したことで特徴付けられる、請求項１又は２に記載の吐出装置。

４．前記ストッパを形成するストッパ要素の一方（２９）が、前記リング（２８）を担持するスポーク（２９）に構築されるように成したことで特徴付けられる、請求項３に記載の吐出装置。

５．前記ストッパを形成する前記ストッパ要素（２９）は、下向き方向における一方の側面において成形リブによって補強されるように成したことで特徴付けられる、請求項３及び４に記載の吐出装置。

６．作動プッシャを形成する前記媒体容器（２０）を受け入れるスリーブ（３５）の回転により、係止解除操作が生じるように成したことで特徴付けられる、先行する請求項の１項に記載の吐出装置。

７．更なる吐出ストロークのステップのための前記圧力点プロテクタ（３９）は、所定の破壊点（４１）によって前記ベース本体に対して接続される少なくとも１つ、好ましくは３つのウェブ（４０）として構築され、特にそれは前記ベース本体（１２）の壁部（４４）によって画成されるスロット（４３）の近傍に配置されるように成したこ

とで特徴付けられる、先行する請求項 1～6 の 1 項に記載の吐出装置。

8 . 前記係止解除操作のための回転ストッパ (38) が設けられ、好ましくは前記ベース本体 (12) の 1 つの突出する壁部 (44) によって形成されるように成したことで特徴付けられる、請求項 5 又は 6 に記載の吐出装置。

9 . 前記媒体リザーバ (20) を受け入れ且つ前記ベース本体 (12) から突出する作動プッシャを形成する前記スリーブ (25) の好ましくはローレットである前記係止解除操作のための取っ手 (33) によって特徴付けられるように成した、請求項 5 から 7 の 1 項に記載の吐出装置。

10 . 前記ベース本体 (12) は、吐出開口 (14) をその端部に備えた突出する接続片 (13) と、そこから横方向に突出する作動ショルダ (35) と、前記接続片 (13) と共に前記媒体リザーバ (20) 及び圧力点プロテクタ (27, 39) を受け入れ、前記作動スリーブ (25) から外へ突出するように成した実質的に円筒形のベース部分 (34) とを有し、前記作動スリーブは、前記ベース本体 (12) の中に押し込まれ得るように成したことで特徴付けられる、先行する請求項 1～9 の 1 項に記載の吐出装置。

11 . 前記媒体リザーバ (20) は、その開始位置では気密に密封されるが、更なる吐出ストロークのステップの開始時には前記吐出流路 (19) に対して接続され、

前記吐出装置（１１）は、好ましくは使い捨て可能な２コンポーネント式の噴霧器である使い捨て可能な複式噴霧器として構築され、患者の２つの鼻孔に対して薬剤を連続的に投与するように成したことで特徴付けられる、先行する請求項 １～１０ の１項に記載の吐出装置。

１ ２ . 前記スラスト・ピストンポンプ（４６）を作動させるために、ピストンロッド（１６）は、ポンプピストンとして前記媒体容器（２０）の中に押し込まれ、ピストン・ストッパ（２１）は、皮下注射針のような中空のプランジャ（１７）によって孔を開けられることが可能であり、前記媒体容器を開放して、それを前記吐出流路（１９）に対して接続するように成し、前記ピストン・ストッパが、前記媒体容器（２０）のためのクロージャを形成するように成したことで特徴付けられる、先行する請求項 １～１１ の１項に記載の吐出装置。

１ ３ . 前記開始位置と前記媒体容器（２０）が開放される位置との間にアイドル通路が設けられるように成したことで特徴付けられる、先行する請求項 １～１２ の１項に記載の吐出装置。

１ ４ . 前記吐出装置（１１）のベース本体（１２）は、接続片（１３）を有し、前記接続片に対しては、前記接続片（１３）よりも遥かに小さな直径を備えた細くて長い放出細管（５０）が接続され、前記接続片の端部には、好ましくはスプレーノズルの形態を採って前記吐出開口

(14)が配置されるように成したことで特徴付けられる、先行する請求項1～13の1項に記載の吐出装置。

15. 前記放出細管(50)は、前記媒体(24)のための少なくとも1本の配管流路(53)を除いて充填材(52)によって十分に満たされる内側流路(54)を有し、前記吐出開口(14)に隣接する前記内側流路の面は、好ましくは前記開口と協働して前記スプレーノズル渦巻き流路(53)を画成し、特には同者を包含するように成したことで特徴付けられる、請求項14に記載の吐出装置。

16. 好ましくは20mmから30mmの間である10mm以上の長さに渡って、前記放出細管(50)は、好ましくは3mmから4mmの間である5mm以下の直径を有するように成したことで特徴付けられる、請求項14又は15に記載の吐出装置。

17. 前記放出細管(50)は、湾曲、キंकなどのような屈曲部を有し、或いは前記接続片(13)から折れ曲がった様式で分岐し、好ましくは、前記屈曲部は、前記細管(50)の柔軟な部分(56)によって形成され、鼻管に対して同者への挿入の間に適合するように成したことで特徴付けられる、請求項14から16の1項に記載の吐出装置。

18. 前記放出細管(50)は、特には内側鼻孔である鼻管の中へ導入するものとして、及び／又は好ましく

はインフルエンザのような風邪に対するワクチン即ち免疫剤である薬剤を吐き出すものとして構築されるように成したことで特徴付けられる、請求項 14 から 17 の 1 項に記載の吐出装置。

19 . 前記吐出開口 (14) は、スプレージェットを形成して鼻甲介を湿らせるものとして構築されるように成したことで特徴付けられる、請求項 14 から 18 の 1 項に記載の吐出装置。

20 . 前記接続片 (13) は、ピストン・ストッパ (21) と、ポンプシリンダを形成する媒体容器 (20) のための案内経路とを包含するように成した、請求項 14 から 19 の 1 項に記載の吐出装置。